

ちっちゃいものくらぶ

ハダカデバネズミ(さん)

「とにかく散歩いたしましょう」小川洋子著を読んでいて、久しぶりに思い出しました、ハダカデバネズミさん。以前、千葉大理学部の「サイエンスプロムナード」でご対面した時、彼らにとっても興味をもちました。(残念ながら現在はもう展示されてないみたいです)



驚きのハダカデバネズミさん

1 哺乳類には珍しい「真社会性」

蟻さんや蜂さんと同じように、個々が特定の役割を持った生活をしています。一つの群れは、10匹以上、290匹以下の大家族。

お布団係:子ハダカデバネズミをお布団のように温める係。赤ちゃんの居心地のいいベッドになるために、自ら肉ぶとん係として精一杯使命を果たします。

兵隊係:巣穴に天敵の蛇さんが来たら、率先して通せんぼします。そして食べられてしまいます。蛇さんは兵隊さんを食べて満足し、巣穴を去ります。

女王:階級社会のトップに君臨し、彼女だけが赤ちゃんを産みます。定期的に巣穴をパトロールし、さぼってる子を叱りつけます。ライバルに女王の座を奪われる危機感を常に持っており、群れの中で最も睡眠時間が少ないそうです。

王様:1頭から数頭のオスだけが、繁殖に参加します。小川さんの本によれば「痩せ細った、痛々しい1匹が目の前を走りすぎて行く。それは女王との繁殖を許されている王様のデバだった」とあります。王様は大変なのかね～。

その他:兵隊の中で極端に太っている男子。彼は女王と交尾できる可能性を捨て、新たな群れを作るべく、旅に出る決心をしたデバ。太るのは、その厳しい旅に備えてエネルギーを蓄えているからなんだった。

2 寿命

生活環境が厳しい時に、代謝を低下させる力があり、それが酸化による損傷を防いでいると考えられています。(野生の子が住んでる国:エチオピア、ケニア、ジブチ、ソマリア 地中で暮らします)

飼育下の寿命は15年以上で、女王では最長で28年2か月の生存記録があるそうです。(因みにハムちゃんは、だいたい2~3年で天国に行っちゃうよね)

3 がんに対する耐性

科学的な分析は難しいので省略しますが、デバさんの遺伝子に、一定の大きさになった細胞のかたまりを増殖させない何かがあるようです。現在デバさんのゲノム解析やがん耐性のメカニズムが研究されているみたい。将来私たちのがん治療や健康にも新たな知見が得られるかもしれないですね。

おふとん係さんたち



参考文献:「ハダカデバネズミ 女王・兵隊・ふとん係」

岩波科学ライブラリー 〈生きもの〉

吉田重人:岡ノ谷一夫著